



木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年4月28日
No.04/89 校長 山元 竜二

令和7年度 始業式「校長先生のお話」より

令和7年4月8日(火)に行われた始業式で、私が「校長先生のお話」の中で話した内容について、その要約を学校だよりCLIMAXに掲載しておこうと思います。間もなく1か月が経過しようとしています、1学期が終了する頃に学校生活を振り返って自己評価できればと思います。

始業式「校長先生のお話」

心眼とは → 目や耳で知覚することのできない大切な物(事)を心の眼によってその真実を確かめようとする力の事である。言わば、科学的な推論に基づいて見えない物の本質を理解する能力のことである。

では、目に見えない大切な物(事)って何があるだろう？教室に帰って担任の先生と語り合ってほしい。

実は、人って「見ているようで見ていない」。例えば木二中校舎の1階から2階に上がるまでの階段を目で見て上っているけど…、実際に何段上っているかわかる人はきっといない。実は、20段ある。

階段を観察して「20段あること」がわかれば、「じゃあ、20段を昇るのにどれくらいの時間を要するだろうか？」「階段を昇るリズムから察するに、今昇ってきている人は誰だろうか？」などの推理・推察が可能になる。(実はこの一節は、「シャーロック・ホームズ」の探偵小説に出てくるやりとり)

つまり、現代人の多くは、物事を目にはするけど、その本質を知ろうとする「観察」をしなくなった。「観察する力」がなくなってしまった。観察する力がなければ、他者の気持ちがわかるわけがない。他者の立場を思いやることができるわけがないと私は思う。

ある書籍を注文して今日自宅に届く予定。校長先生は、その本を読んでまた勉強しようと考えている。その本とは、『心眼：あなたは見ているようで見ていない』クリスチャン・マセビアウ著

この本は、多くの人が失いつつある「観察する力」を取り戻す方法を語った本で、著者のクリスチャン・マセビアウという人は、実務家であり、現象学を専門としている人。

現象学とは「先入観に囚われることなく、物事をありのままに観察する」という学問のこと。

この本によれば、まず第一に**物事を色のついた眼鏡でみてもならないということ**。

人は早々に「こうに違いない」と分析、結論づけてストーリーを思い描いてしまうとその後の情報もそのストーリーに合わせて解釈してしまう傾向がある。ありのままを見ようとする心の眼が必要になってくる。

前景ではなく背景に眼を向けること。要は核心を知ろうとする行動。説明されていることはもちろん、説明されていないことは何か？を知ろうとすること。本を読んでいる時も、書かれていることはわかるけど、書かれていないことは何かを知ろうとする行動や考え方のこと。

他者が世界をどう見ているか想像すること。他者が何を感じ、どんな思いでいるか理解できるようにならないといけない。世の中には、おもしろいくらいに見透かしてしまうエスパーみたいな人が一定数いて、自身がそうなれば他者をもっと大切にできるのではないかと考える。

SEKAI NO OWARIの♪Family♪という楽曲の歌詞に

ただいまの声でわかる
わざわざ何があったのなんて
聞かないかないけど

ただいまの言葉が
助けてって聞こえた気がして
何も聞かないけど
そばにいようと思った

という歌詞がある。

ボーカルの深瀬とその妹(2人)が歌う楽曲である。故に、「家族」だからこその心のつながりが感じられるが、まさに「心眼」を端的に表している表現ではないだろうか。

令和7年度木更津第二中学校は、利他の心をもっと発揮できるように心の眼、「心眼」をキーワードに活動してほしい。心眼を以て他を利する人になってほしい。